* THP養成コースで学んだことを、どのように生かしているか

中部大学 生命健康科学部 作業療法学科
萩　美希

*THPを受講した動機

*病院から在宅へ退院される方々の支援や、在宅生活を維持するための支援を実践しながら、作業療法士ができること、しなければならないことを模索していた。

疑問

大きな責任

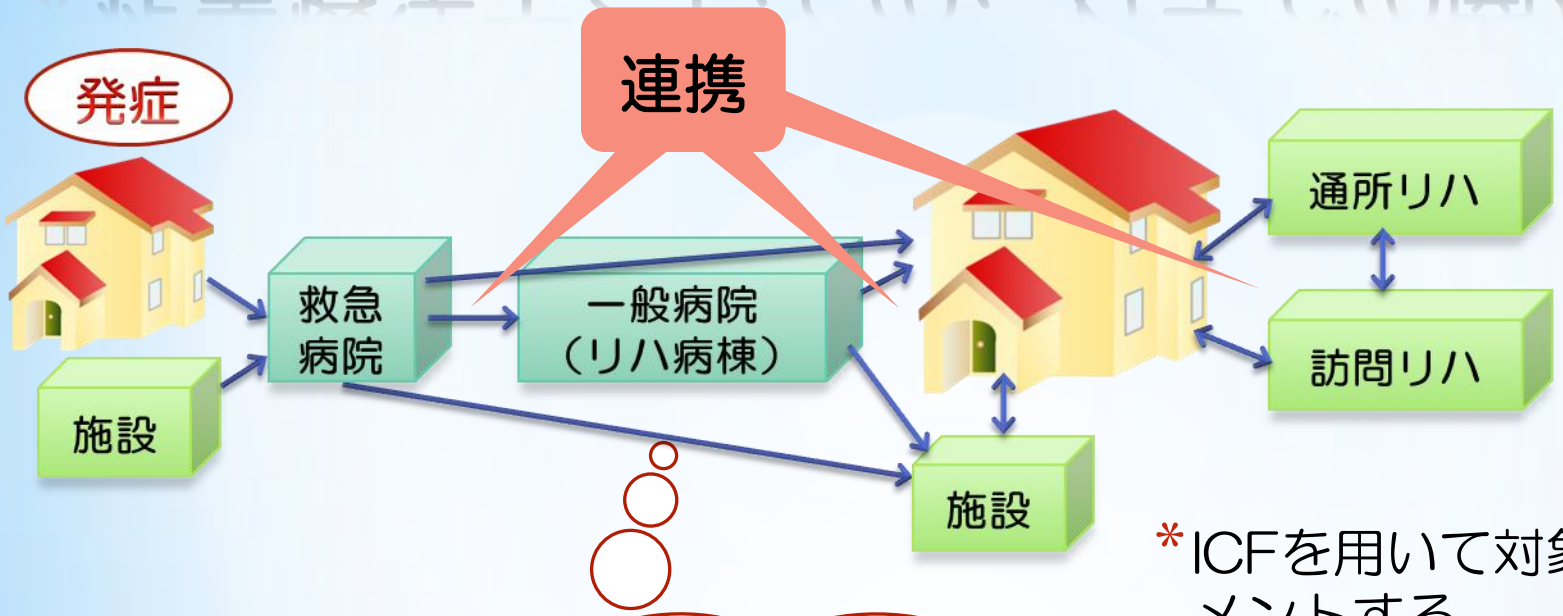
向上心

*THPコース修了生の人材像が、とても魅力的であった。

「多職種協働型の在宅医療・介護システムづくりを推進するコーディネーター」

「個人・家族・社会の健康を包括的に支える学際的アプローチの企画・管理者」

＊作業療法士としてのこれまでの関わり



＊どのような人が、どのような場所で、どのような生活をするのか
＊どのようにすればできるか
＊どのような人が、介護するのか 等

＊ICFを用いて対象者をアセスメントする
＊個別リハをしながら、対象者や家族の心情を動的に捉える
＊病棟スタッフとチームで動く
＊退院前の多職種カンファ
＊自宅訪問し、実際の場で意見交換　等々

私一人では無力である。
作業療法士の知識や技術だけでは立ち向かえない問題が、多くある。

*自宅退院前の多職種連携の実際
～事例紹介①～

* ８０歳代後半、女性
* 大腿骨頸部骨折のOpe後
* 要介護２
* シルバーカー歩行見守り、独歩は要介助。他のADLは準備介助や促しにて可能。
* 認知症症状は中等度～重度（記憶障害、注意障害）
* 長男家族と同居

自宅訪問報告書参照

*訪問リハビリテーションの実際
～事例紹介②～

* ７０歳代後半、女性
* 脳梗塞により、右片麻痺・失語症となる。
* 要介護４
* 回復期リハ病院から退院して２か月経過。
* 夫、長男と同居。夫は車の運転可能、長男は平日は仕事、土日休み。
* 長女は同市内に住んでいる。

ケアマネージャーからは、通所リハの拒否があり、退院後の介護生活を安定するために、訪問リハを依頼された。

＊高齢者の生活を支える職種

*作業療法士の仕事

* その人らしい生活を支援する
* 人や物とのつながりを作り、利用し、その人にとってよりよい生活の場を作っていく

人の動きや認知を評価できる専門性

それを伝えるコミュニケーション力

方向付けるコンサルテーション力

↓

THP演習で学んだ、コーチングの基礎や
他者理解・尊重のためのコミュニケーション（ベイトソンの精神の生態学）を生かす

*老年期の作業療法で考えること

* 加齢や病気により心身機能が低下しても、生活の質を維持するためにどんなことができればよいか？
* 認知症になっても暮らし続けることのできる環境はどのようなものだろうか？
* 転倒や病気など将来の不安への対処法は何か？
* 人とのつながりを維持するための作業にはどんなものがあるか？

対象者や家族と一緒に、

何をしたら元気になれるか探す

*訪問リハビリテーションの役割

* 「病院・施設」と「在宅」をつなぐ
* 「医療」と「介護」をつなぐ
* 家族をつなぐ　（理解を深める、より良い介護方法　等）
* 地域全体をつなぐ（ご近所付き合い、行事に参加　等）

・・・コーディネーターとしての役割

THPにおける学び（職能）が、とても有効である。

*THPである作業療法士として、対象者や家族、多職種と関わる

作業療法士としてのスキル

* 対象者の身体・認知能力をしっかり評価できる。どの程度の遂行能力があるか、個人的な特徴を把握できる。
* 本人・家族と信頼関係を作りながら、個人因子やその人に特化した環境因子についてしっかり評価できる。
* 利用できる社会的支援についての知識がある。新しい情報をキャッチするアンテナをはる。

多職種協働のコーディネーターとしてのスキル

* 専門職としての意見を伝えられる。
* 自分の価値観と、本人や家族、あるいは他職種との価値観の違いを知り、認められる。
* 本人の気持ちを、家族や介護・医療スタッフ・各業者スタッフに伝える代弁者となれる。
* それぞれの専門職が、対象者にとって必要な専門性を効率よく発揮していくための、推進力となれる。

個別性の高い対象者と家族に適したアプローチを実践できる。

*THPコースでの学び（まとめ）

*THPでは、いろいろなことを広く学べた。

①研究法　　②それぞれの職種や職場における専門性

③コミュニケーションスキル

*特に、演習が有意義であった。

①コーチングスキル　②ベイトソンの精神の生態学より

③症例に対する多職種ディスカッション

*より良く連携するために必要なこと

①自分の価値観を理解する　②相手の話を聞き、引き出す

③専門職としての意見を効率よく言語化できる

④各専門職がどう動くか、優先順位を付けてまとめられる

⇒　対象者に対して共通理解を持っていけるかどうかが、重要である。

*THPとしての課題

*THPが担おうとしている役割や分野はとても広く、学習内容も多岐に渡っている。

→ 自己満足とせず、培った思想を頭におき、それぞれの現場で、その専門職なりに実践する。実践からコツをつかむ。

*個人・家族を尊重することと、社会全体が健康になるためのアプローチは、一致する部分と相反する部分があるのでは。

→ 包括的に支えるアプローチを学際的に企画するには、私はまだ不十分。現状の医療・福祉を含む社会制度を考えたり、実例を挙げた演習が必要。

*実務では、対象者に対する各専門職の担当は基本的に一人である。

→ 専門職養成の段階にも、他人に対する理解を深め、より良いコミュニケーションが築けるための教育を取り入れる。